【第三種郵便物認可】 日本経済新聞

景況感 14期ぶりプラス

県内7～9月 建設など大幅改善

関東財務局

関東財務局千葉財務事務所が13日発表した2017年7～9月期の法人企業景気予測調査によると、県内企業の景況判断指数（BSI）は1・2と前四半期に比べて5・3ポイント上昇した。BSIがマイナス圏を脱したのは14年1～3月期以来、14四半期ぶり。建設業や小売業など非製造業の業績が大幅に改善し、全体の景況感を押し上げた。

「上昇」と答えた企業の割合から「下降」を引いた数値。調査は8月15日時点で県内の大企業、中堅・中小企業343社から回答を得た。

非製造業の7～9月期の景況判断BSIは前期比9・5ポイント上昇の3・3と大幅に改善した。特に建設業は都市部でオフィスビルやマンションの開発が相次ぎ、業績の改善が目立つ。財務事務所のヒアリングでも建設業者から「受注増で職人が足りなくなり、他社に仕事を回した」といった声が出ているという。

一方、製造業の景況判断BSIは前の期に比べて11・2ポイント低下のマイナス7・0。主要産業の一つである化学などで景況が悪化しているとの見方が多かった。

10～12月期の景況判断BSIの予測値は県内企業全体で3・8。7～9月期を2・6ポイント上回り、景況感の改善傾向が続く見通しだ。

県内新車登録7.4%増

8月「軽」の販売は15%増

日本自動車販売協会連合会千葉県支部がまとめた8月の県内の新車登録台数（軽自動車を除く）は、前年同月比7・4%増の1万754台だった。前年実績を上回るのは10カ月連続。一方、千葉県軽自動車協会がまとめた8月の県内の軽の販売台数は15・5%増の4882台だった。燃費がよい小型乗用車や軽に対する需要が伸びているとみられる。

車種別では普通乗用車が前年同月比2・5%増の4815台だった。小型自動車はホンダの「フリード」などが好調で、同9・1%増の3936台だった。

軽自動車は主力の乗用車が16・1%増3890台となり、6カ月連続で前年実績を上回った。ホンダの「N－BOX」やダイハツ工業の「ムーヴ」などの販売が好調だった。燃費面でのメリットのほか、税金など維持費を抑えられる軽の人気が続いている。

「豊洲移転」巡り 江東区、都に不満

来客万客など千客施設

豊洲市場への移転を巡り、東京都に対して移転先の江東区が不満を強めている。13日の区議会では、都が市場内に計画する商業施設「千客万来施設（千客）」や、風評被害対策が主に議論された。区議は出席した都幹部に厳しい質問を浴びせ、都当局や小池百合子知事に対して「信頼できない」といった批判が相次いだ。都と区のあいだの協力関係への影響を懸念する声もあがり始めた。

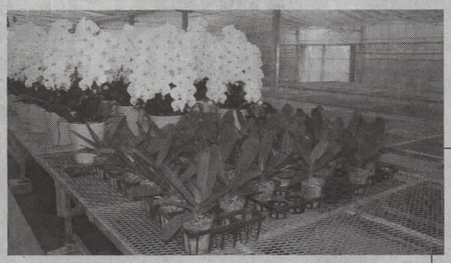
「豊洲と築地に同じような施設ができると共倒れになる」「都民にわかりやすく情報を発信し、風評被害の払拭を」「知事自身が江東区に説明すべきだ」――。13日の江東区議会の委員会。ほぼ全ての質問が都への批判や注文に費やされた。

千客は市場建物の隣に整備する計画の飲食・物販などの商業施設。知事が豊洲移転の基本方針で「食のテーマパーク」を含む「築地再開発」を提示し、千客の事業者が困惑。事業が頓挫するのではないかとの心配が地元で強まる。豊洲市場の風評被害を不安視する住民も少なくない。

NPO法人、富津にコチョウラン農園

重度障害者も働きやすく

高付加価値の商品に特化 月給10万円めざす



コチョウランの苗（手前）を半年間栽培し、生花として出荷する

知的障害者に働きがいのある職場を――。NPO法人のAlonAlon（アロンアロン、千葉県いすみ市）は日本財団の支援を受け、障害者の手でコチョウランを栽培する農園を開設した。付加価値の高い商品に特化し、重い障害を抱えていても毎月10万円の給料を受け取れる職場づくりを目指す。

富津市に今月オープンした「AlonAlonオーキッドガーデン」は温室内の照度や気温の管理・調節作業の多くを機械化し、コチョウランが育ちやすい環境を常に保つ。定員20人のスタッフは障害の度合いに応じ、水やりや余分な芽の摘み取り、茎の調整といった作業を担当する。

オーキッドガーデンは重度の障害者を対象とした「就労継続支援B型」という施設に位置づけられる。B型で働く障害者が受け取る賃金は全国平均で月1万5千円（2015年度、厚生労働省調査）。障害の度合いが比較的軽いA型でも月6万8千円にとどまり、障害者の経済的自立は難しい。

コチョウランで安定した収入を得るために編み出したのが「苗のオーナー制度」。オーナーがコチョウラン1本分の市価に相当する1万円を出資した場合、農園は10本の苗を仕入れることができる。半年間の栽培期間を経て開花させた後、1本をオーナーに届け、残り9本を慶弔用として企業に販売する。

オーナーは市価と同じ値段でコチョウランを購入する形となり、金銭的なメリットはない。しかし、最初に投じた1万円が半年間で10万円分の価値を生み、障害者の生活を支える。アロンアロンの那部智史理事長は「私たちは売り上げではなく『共感』を得ることを目指したい」と話す。

オーキッドガーデンの総工費約6000万円のうち、日本財団が3800万円を補助した。笹川陽平会長は「コチョウランは付加価値が高い。ここから直接販売すれば中間搾取もなく、収益を得られる」と事業性を評価する。

障害者の就労には待遇面以外にも課題が多い。アロンアロンは当初、ほかの地域で農園開設を検討したが「『周辺の地価が下がる』と地元の反対を受けた」（那部氏）。政府が掲げた「一億総活躍」は障害者の就労支援をうたったが、理念や実践が浸透しているとはおよそ言いがたい。「就労支援の成功例としてコチョウランが『満開』になるよう期待している」と笹川氏。冷静なビジネス感覚と温かい福祉の融合は、障害者が自立できる環境づくりのカギを握る。

地域情報ヘッドライン

新
京